

ロータリー財団 地域セミナー報告

ロータリー財団委員会

委員長 福家 宏 (八尾中央 RC)

日時：2011年11月23日(水) 10時～17時

場所：大阪国際会議場12F 特別会議場

昨年に引き続き今年度もロータリー研究会は近藤雅臣 RI理事が大阪を開催地として招集されましたので、この付随会合である今年度第2回ロータリー財団地域セミナーも大阪で開催されました。会場は立派でしたが出席者数(250名以上)の割には狭く、テーブルは来賓席にのみ用意されており、資料確認やメモの作成には不便を感じました。橋本 譲第3ゾーンロータリー財団地域コーディネーターの司会で開会。来賓紹介の後、小沢一彦財団管理委員、近藤雅臣 RI理事、ビル・ボイド財団管理委員長、デビッド・ベンダー寄付増進部長がご挨拶をされ、引き続き表彰がありました。アーチ・クランフ・ソサエティ(累計25万ドル以上の寄付者)3名、メジャー・ドナー(累計1万ドル以上)4名、ポリオ特別功労賞1名、計8名の方が登壇され賞状の授与を受けられました。ロータリー財団は、寄付者を本当に大切にしています。ポリオ特別功労者の小永井氏は南太平洋の多くの小国に自ら赴き、ポリオ撲滅活動に取り組まれたということで、献身的奉仕は受賞に十分値するものであります。このあとよいよセミナー開始です。

【恒久基金現況】

恒久基金は投資収益のみを財団プログラムに利用します(年間800万ドル)。1,000ドル以上の寄付者はベネファクターと呼ばれます。人道的ニーズへの対応能力を高めるため、収入源を確保して財団の堅実な未来を築くことを目的として設立された基金は、その寄付額が幾分減少の傾向があるとのこと。一方2025年までに10億ドル達成の目標は現時点で68.8%に到達しています。

【公益財団法人ロータリー日本財団】

岩井 敏同財団理事長が、同財団設立への10年の道のりを語られ、財団運営には卓越した経理処理能力が求められており業務遂行はたやすくは無いことを話されました。課題として地方税の優遇措置をどう取りつけるかということを挙げられました。

【平和フェローの現況】

坂本俊雄ホストエリア・コーディネーター以下4名の方々は次のように語られました。ロータリーの最終目的は「世界平和」。平和フェローシップ(奨学金)の前身はポール・ハリス没後50周年を記念して設立され、2000年10月以後何度かの名称変更ののちこの名称となり、2002年に平和センターが設立され、世界の7大学が平和センターに指定されています。平和フェロー(奨学生)となるには資格要件がありますが、ロータリーは多くの人がこの制度を利用して海外の大学院で修士の学位を取得し、各地で起きている紛争の解決や平和問題のエキスパートとして活躍してくれることを願っています。平和フェローシップはロータリアンの寄付で賄われていません。平和フェロー1人に学位を与えるには7万5千ドルを要します。これまでの修了生は515名に上ります。国際基督教大学(ICU)には平和フェローのための東ヶ崎潔記念ダイアログ・ハウスが建設されていますが、建設費に充てる寄付金もお願い致します。

【東日本大震災と復興基金支援事業】

パネル・ディスカッション

小沢一彦東日本震災復興基金委員長がアドバイザー。同委員の北 清治氏、第2520地区菅原一博ガバナー、第2830地区小山内康晴ガバナー、第2530地区平井義郎地区財団委員長の4名がパネリストとなってディスカッションが行われました。第2520地区は岩手県、宮城県の両県にわたる広い地区で、リアス式海岸のため津波による被災地は広大で被害も深刻であったこと、17名のロータリアンが命を落とされ、25のRCが活動出来なくなったこと、復興支援には困難が伴っていることなど切々と訴えられました。第2830地区(青森)は八戸港近辺の深刻な被災状況を示されながら、パイロット地区が伝統的地区と協同事業が出来ない不便さを訴えられました。災害支援については特別な配慮があっても然るべきのご意見でした。第2530地区(福島)は地震津波災害に加えて原発事故による放射線被曝という難問を抱えており、困難な状況とともに、先の長い復興支援を期待しておられました。北 清治委員はこの震災に対するロータリー財団の迅速な基金設置を評価され、東日本震災復興基金には164件の申請があり、128件を審査し、57件

を承認。36件を本日中に審査するとの発表をされました。小沢委員長は日本委員会設立の過程と事務局 柚木裕子氏のご健闘ぶりを紹介され、基金への寄付金受けは来年6月末まで、申請は3月末までに延期することを発表されました。

【ポリオ撲滅：2億ドルのチャレンジ】

江崎柳節ゾーン・チャレンジ・コーディネーターは現在のポリオ発症状況を説明され(インドは発症数1件に)、アフガニスタン、パキスタン国境付近での撲滅活動の難しさや新型2価経口ワクチンの効果についても説明されました。またインドのNID(全国予防接種デー)では1日に1億7千万人もの子供に接種が行われたことと、2億ドルのチャレンジは1億9,520万ドル(98%達成)に達したことを紹介されました。

【ロータリー・カード】

小林完治ロータリーカード、ゾーン・コーディネーターは、ロータリアンは是非ともこのカードに配偶者ともに加入して、1日1,000円でも良いからこれで買い物をして欲しいと訴えられました。現在カードを利用した金額の0.3%は東日本震災復興に充てられることになっており、日本中のロータリアンが一斉にカードを利用すればそれは大きな力になることや、クラブの行事の支払にこのカードを利用するよう呼びかけられました。

【未来の夢計画】

清水優季財団室長より2013年に向けた移行手続きについて解説があり、これに引き続き日本の6パイロット地区から3地区(D2650, D2690, D2770)の代表者がパイ

ロット地区として経験された新補助金制度の利用について報告をされました。地区財団監査委員会の設置、地区内ロータリアンへの研修として

- ① 地区補助金管理セミナー
- ② PETS
- ③ 地区協議会
- ④ 地区ロータリー財団セミナー
- ⑤ G補佐研修

などを挙げてその重要性を説かれました。2013年に有効に補助金を活用するには、地区として行程表を作成すること、年度が始まる前に資金推進委員会は活動を始めること、奨学金・学友グループ、WCSグループ、VTTグループなどを編成してグループごとに計画を進めること、地区として補助金利用について申し合わせルールの作成をすること、新地区補助金申請書は3月末までに提出すること、などが推奨されました。

- ◎ 休憩時間中に、当地区のポリオ撲滅キャンペーンDVD「感染症ポリオ 残り1%の闘い」が放映されました。

【質疑応答】

開会後に質問用紙が入口付近にあることを知らされ、用紙はお昼に回収されました。従って昼食後の「東日本震災復興基金」や「未来の夢計画」などの重要なプログラムに関しては質問したくてもその方法がありませんでした。当然ながら質問数も極めて少なくセミナー運営方法に幾分の疑問を感じました。

このあと近藤RI理事による講評をもって、第2回ロータリー財団地域セミナーは閉会となりました。